

第二回館山市議定会定例会會議錄

(第二号)

昭和四十四年六月招集

第二回館山市議会定例会会議録（第二号）目次

日	時	四
場	所	四
出席議員		四
欠席議員		五
出席説明員		五
出席事務局職員		七
議事日程		七
開議		八
諸般の報告		八
出席説明員の報告		九
行政一般質問		九
安西益男君の質問、当局の応答		九
議案の上程（報告第二号）		一六

議案の上程（議案第三十九号）	採	決	一六
議案の上程（議案第四十号）	採	決	一七
議案の上程（議案第四十一号）	採	決	一八
議案の上程（議案第四十二号）	採	決	一九
質疑 応 答	採	決	二七
議案の上程（議案第四十三号）	採	決	二七
質疑 応 答	採	決	二八
議案の上程（議案第四十五号）	採	決	三五
議案の上程（議案第四十六号）	採	決	三六
採	決		三七

議案の上程（議案第四十七号）	三七
質疑応答	三七
採決	四五
日程の追加	四六
常任委員会委員の選任	四七
日程の追加	四八
議案の配付	四九
議案の上程（議案第四十八号）	四九
議案の内容説明	四九
採決	五〇
日程の追加	五〇
千葉県競輪組合議会議員選挙	五一
閉会	五二
本日の会議に付した事件	五三

第二回館山市議會定例会會議錄(第二号)

昭和四十四年六月招集

一、昭和四十四年六月二十日(金曜日)午前十時

一、館山市議會本會議場

一、出席議員 二十七名

二番	石井輝久	三番	嶋田石蔵
四番	伊賀多朗	五番	藤田益治
六番	磯辺博	七番	白熊盛太郎
八番	黒川正	九番	三幣勇
一〇番	西村真次	一二番	小柴孝
一三番	山田教字	一四番	遠山ヨネ子
一五番	石井正	一六番	五十嵐昇
一七番	江田徳太郎	一八番	安西益男
一九番	島野茂樹郎	二〇番	中村省吾
二二番	小沢恵太郎	二三番	飯田義男

二四番 田中 禄郎

二五番 田村 源治郎

二六番 秋山 六三郎

二七番 安沢 徳順

二八番 望月 照正

二九番 鈴木 市蔵

三〇番 山口 康

一、欠席議員 二名

一番 吉田 勇治郎

二番 菊井 敏博

一、出席説明員

市長

本間

讓

助役

畠山

伝

秘書課長

太田 博

雄

人事課長

小沢 正治

企画課長

伊藤 幸太郎

庶務課長

小倉 澄男

財政課長

長谷川 広治

市民課長

山口 実

調査課長

石渡 東

収納課長

横溝 功

農産課長

石井 謀

(六)

社會教育委員會

小宮義

夫

選舉管理委員會
書記長

鈴木

力

監查委員
事務局長

石原

育

農務局長
農業委員會

昌山市治郎

出席事務局職員

事務局 長

高梨清

—

事務局長補佐

高尾

豐

書
記

兵藤恭

1000

書
記

錦
織
睦

子

書
記

渡
辺

弘

書
記

庄
司

徹

一、議事日程（第二号）

昭和四十四年六月二十日午前十時開議

日程第一

行政一般通告質問

日程第二 報告第二号

財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

日程第三 議案第三十九号

千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定

ていつて

日程第四	議案第四十号	館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第五	議案第四十一号	館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第六	議案第四十二号	損害賠償の額を定めることについて
日程第七	議案第四十三号	館山市酪農振興事業資金利子補給条例の制定について
日程第八	議案第四十五号	館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第九	議案第四十六号	館山市養老年金条例の一部を改正する条例の制定について
日程第十	議案第四十七号	昭和四十四年度館山市一般会計補正予算(第二号)

開 議

午前十時二分 開 議

○ 議長 (西村真次君) 本日の出席議員数二十三名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

諸 般 の 報 告

○ 議長 (西村真次君) この際申し上げます。私このたび全国市議会議長会の役員改選にあたりまして、はからずも全国市議会議員共済会の代議員に選任されました。はなはだ微力ではございますが、せつかくの御推挙でありますので、議員共済のため努力する決心をいたしました。今後皆さま方の一段の御協力をたまわりますようお願い申し上げます。

げます。

出席説明員の報告

○議長（西村真次君） 本日の会議に説明員として角田主事を出席させる旨の報告がありました。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般質問

○議長（西村真次君） 日程第一、通告による行政一般質問を行ないます。一八番議員安西益男君。

（一八番議員安西益男君登壇）

○一八番（安西益男君） 私は二点の点につきましてお伺いさせていただくわけでございます。

最初まず養老年金の増額ということについてでございますが、御承知のようにわが国におきましては厚生年金、国民年金等各種の年金制度がございますが、しかしそのほとんどが拠出制年金制度が多く真の老人対策とはいえない。また無拠出制の老令年金制度もありますが、この老令年金制度は七十才以上の老人に対し、月額千七百円支給されるのみであり、なおかつ支給対照には種々の制限のワクがなされておるといのが現状でございます。従いましてこれらの対象になる人たち、政治の恩恵に浴し得ない人たち、これらの立場にある老令者の方たちがこのような事態にある。このような人たちに対し、各地方議会におきましては独自の老人手当制度、老令年金支給制度あるいはまた敬老

年金制度等が実施されるに至っております。

当市におきましても、老令年金支給条例が昭和三十二年に制定され年間千二百円、一カ月百円の支給額のまま現在に至つてゐるわけであります。もつとも今回の定例会におきまして三百円増額年間千五百円ということではございますが、これとても一カ月百二十五円、一日当たり四円ということに相なるわけでございます。当市におきましても養老年金は敬老の意を表し、福祉の増進を目的とするということにありますが、今日諸物価の高騰ははなだしく加えて現実の家族環境の中にあつて一体何を求めもつとも喜びを感じるものは何か、これらの人たちの立場になつて思索し、検討してやるべきではなからうかと存ずるものでございます。これらの人たちもかつてはひとしく社会に貢献をなした人たちでございましょう。現在もつとも重要視されかつその根本理念としては人間性復活への道であり、かつまた訴えてございます。かような観点から今日の老人福祉対策をかんずく養老年金制度はこれらの人たちに光明をというには、あまりにも貧困といわざるを得ないのであります。故に私はできるならば七十歳以上の老人に対し、月額三千円の老人の手当の支給を提唱するものであります。しかし実際的にはそれまでの段階としてまず八十歳以上の高令者に対して年間二回すなわち三月と九月に各三千円ずつの給付実施をすみやかに実行にうつすべきであると申し上げたいのでございます。当局の熱意ある御処置を要望いたす次第でございます。

次の点は災害見舞金制度の実施についてということでございます。消防庁がまとめました昭和四十三年版の消防白書によりますと、四十二年度の火災発生件数は全国で五万四千五百六件、損害額五百三十三億円、死者千百六人、負傷者九千三百七十人へのぼりいづれも戦後最高の記録になつております。これを市町村別の出火率すなわち人口一万一人当たりの出火率と一件当たりの焼損面積について見ますと、出火率は特別区が八・二％、七大都市六・六％、その他の都市におきましては六・三％、なおまた町村におきましては二・九％と大都市ほどの出火率は高いという

ことが示されております。また一件当たりの焼損面積は逆に特別区が二七平方メートル、七大都市におきましては三九平方メートル、その他の都市六〇平方メートル、町村におきましては一三四平方メートルと都市化が進んだ地域ほど少なくなっており、消防力に差のあることが示されておるのでございます。

また警察庁がまとめました四十二年度の風水害による被害発生状況は死者五百五十五人、負傷者九百四十二人、建物物の全壊戸数は千五百四十三となつております。また床上浸水八万二千五百四十というたいたいの記録が出ております。これらの数字が示すようにいつ災害が発生するかわかりません。しかも発生後の補償問題、救援対策等におきましては、当局としては今なお具体的処置がなされておらない現状にございますが、住民が一たん災害にあいました場合、救援対策はすでに現時点におきましては実施の段階になければならぬものと痛感するものでございます。

昨今住民の方々より災害に際し、市からの見舞金の支給制度がでないものであろうか、このような訴えをしばしば聞かされるわけでございます。当局は住民の福祉対策に強い関心を示されておりますが、住民が災害にあい、とほろにくりております際、一時的にせよ見舞金が支給されるならばどれほど力を得、かつまた希望を得るかはかりしれないものがございましょう。住民に安心感を与え住民を守る上からもこの見舞金制度の実施を強く主張するものでございます。

災害見舞金の受給範囲及び順位は労働基準法施行規則第四十二条乃至は四十四条の例によるものとして、支給額は死亡五万円、負傷三万円以内、建物の全壊あるいは全壊は五万円以内、同半壊乃至は半壊これが二万円以内とし、ただし天災その他非常災害が災害救助法の適用を受けたときには支給額を減額し、あるいは支給しないことができる。以上参考に申し上げます、見舞金制度の実施を強く願うものでございます。以上です。

○ 議長（西村真次君） 本間市長。

(市長本問 譲君登壇)

○ 市長 (本問 譲君) 安西議員さんの御質問に対しましてお答えを申し上げたいと存じます。

安西議員さんは非常に社会福祉関係につきましましていろいろ御検討なされておりました。私もその点につきましては敬意を表したいと思う次第でございますが、特に老人に対する養老年金の増額につきましても、私もそうあるべきではないかと考えておるわけでございますが、やはりいろいろ予算等の関係もありまして館山市におきましては、現在八十六歳に達した人たちに対して千二百円の養老年金を支給してある。こういうわけでございますが、三月の市会におきまして御了承いたしておりましたように本年は額は少ないんですけれども、三百円増して千五百円ということとで一応三月市会で御承認を得ておりまして、きょうはその条例の変更の御了承をいただきたい。こういうことで提案してあるわけでございますが、八十六歳の方が昨年は約二百七十名館山市におられるわけでございまして、その支給額は二十八万三千六百円というようになつておる次第でございますが、今、市におきましては八十八歳、米寿のお祝いの方に対しては九月十五日の敬老の日を記念してさぶとんをおあげしておるわけでございます。それから本年はやはり三月議会で決議をお願いしておりますが、七十五歳以上の方に対して約八百人おります。拡大鏡、めがねですね。これを希望によつて支給するという予算も御了承願つておるわけでございまして、いろいろ配慮をしておるわけでございます。

私は老人福祉につきましては、非常に関心をもちまして、市政の上につきましてもいろいろ皆さま方の御了承を得てやつておるわけでございますが、毎年小学校の運動会で敬老会と称して七十五歳以上の方を運動会にお招きしておつたわけでございますが、あの姿を見たときに小さいすわつて窮屈でかえつて御迷惑ではないかという考えもありまして、去年からは市内十一カ所の学校の講堂に六十歳以上の方をお招きして一日ゆつくり楽しんでもらうとい

りことで始めたわけでございますが、午前中は大体お医者さんの老人管理、午後からは市内の芸能クラブが四つございますが、これらの方々に犠牲的に余興をやつてもらつて一日楽しんでもらうということでたいへん喜ばれております。本年もやはりそれを続けて参りたいと考えておる次第でございます。

今の安西さんのおつしやる年金の三千円、七十歳以上ですか、引き上げということも一応ごもつとも思いますが本年はほかにそういう施策をしておりますから、本年は千五百円で御了承願ひまして、来年度はよく検討しましてそのことについてやつて参りたい。私は自分で考えておるのは七十五歳以上ぐらいにまで引き下げてやる方がいいんではないかと自分では考えておりますが、本年度はやはり千五百円ということで御了承を願ひたいと思う次第でございます。

それから災害見舞金につきましては、やはりお説のように非常にいいことでございますが、なかにかいゝろんな関係でそうはいきませんが、現在におきましては災害の発生した場合には私はおれば必ず行つてわずかですが、二千円ぐらいです。お見舞を差し上げておるといふことで、それから市長は日赤の館山支部長ということになつておりまして支部長として見舞金を持つて行く、また日赤の方からも毛布とかいろいろのものも現品で届くようなわけでございますが、これにつきましては他市の方を調べたのを申し上げますと、大体十九市のうち六市がやつておるようです。大体全焼の場合は五千円とか半焼の場合は二千五百円とかアパートのひとり暮らしの人は二千五百円、風水害の見舞金は流失した家屋については五千円、アパートは二千五百円、震災は二千五百円ということをやつておるところもあるわけでございますが、館山市におきましても安西さんのおつしやるように非常に大きなことでございますから本年はこのままやつていつて額を少し増額する。二千円を三千円にするとか、来年度におきましてはよその方の関係も調べて皆さま方の御意見もお伺ひして規則なり条例なりを制定して今のお話のように皆さんが安心した生活のできるよ

うな配慮をしたいというふうに考えておるわけでございます。私も社会福祉の面につきましては、これからも検討していきたいと思つていますが、この間協議会のときも正木の焼却場の熱が余つていますからあれを利用して、いろいろ利用の仕方がございますが、やはり老人というものはある意味ではじやま扱いにされておるような面もある。非常に気の毒な人がたくさんおりますが、そういう人が楽しむところの老人福祉センター的なものをできれば来年度あそこを改善してあの熱量を利用していきたい。いろいろそれにつきましては関係課長の間も視察にやりましたし、今後とも検討してある成案ができてまして、経済上の事情が許すようになれば一つ何とか老人福祉のためにその面からもやつて参りたい。こういうふうに考える次第でございます。以上申し上げます。

○ 一八番 (安西益男君) ただいま市長さんからの御説明によりましてわかりましたんですが、福祉対策には非常に市長御自身関心を示されておるといふことも重々わかるわけであります。なお今お話しがございましたように老人センター等も考慮されておるといふ面からしましても、非常な関心が示されたといふこともわかるわけあります。実際今お話しの中にございましたように老人がじやま扱いされておるといふ、こういう現状が案外多いといふことは事実なわけです。そういう面からしまして、まずでき得るならば八十歳以上これは新年度からでも私は結構だと思ふんです。できるならば七十五歳以上、これの八十六歳という年令から引さ下げさらにはできるならば来年度から年二回三月と九月に給付額についてとくと御研究願いたい。すみやかに十分御配慮願いたい。こう要望するわけでございます。いずれにしても生活を保証するといふ性質のものではございませんけれども、やはりこういう人たちがしよせんどどこに行くにしても、どこに行つて何をするにしても月額百二十五円、一日にしますと四円という面からしますと、今の時点ではやはり考慮してあげなければならぬのではないかとこのように強く感ずるわけでございますので、市長さんからも特に老人に対しては関心を強く持たれておるといふことでございますので、先ほどの今年度の増

額、来年度は条例化しようというようなお話しもございましたので、その点なにとぞよろしくお願いしたいと思ひます。

それから災害の見舞金ということでございます。条例化というお話しがございましたように大体の対象が災害というよりも火災が大半の対象になろうかと思ひわけであります。

昨年度の全焼の件数は何件ぐらいございましたでしょうか、ちよつと消防の関係の方からお聞かせ願ひたいと思います。また半焼の件数はどのぐらいございましたでしょうか、その点ちよつとお伺ひしたいと思ひます。

○ 消防本部次長（岩田 実君） お答えいたします。昨年の、四十三年の火災件数は総件数三十四件でございます。これは大小取りまぜた件数でございます。そのうち建物、家屋の火災が十件、それから山林、原野が十五件、車輛おもに四輪車自動車でございますがこれが六件、船舶が二件、その他これは電柱火災でございますが、こんなような火災の種別でございまして三十四件、そのうち単独火災要するに家屋が一軒だけでもつて済んだ火災が二件でございます。出火した家はそれは全焼しております。延焼火災、出火した家屋から延焼しまして隣の家に燃えて、隣の家が全焼でなくて半焼程度で済んだものを含んで三件でございます。それから部分焼、家屋のごく一部を焼いただけでどまつたものが四件でございます。家屋火災十件でございますして、その焼失坪数が一、二二九・五七ヘーベ、坪数になおしまして三百七十二・六坪でございます。以上でございます。

○ 一八番（安西益男君） 今お話しのごさいますようにきわめて少ないというデータが示されたわけでございますので、災害見舞金という制度も大体が火災を対象というところになろうかと思はれるわけです。天災あるいは他のそういった建物等の流失というようなことはきわめて少ない。また大きな災害ということになれば救助法が適用されるわけでございますので、今申し上げましたように火災を対象としたらいいんではないかということが考えられます。

すので、この点も十分御配慮いただきまして、この実施の方向に向けていただきたい。このように要望するわけでございます。

二点の点につきまして、市長さんから誠意ある回答がございましたので、何ぶん御研究の上その方向に向いていただきたい。こう要望いたしまして終りいたします。

○ 議長 (西村真次君) 以上で通告による行政一般質問を終ります。

この際議事について申し上げます。本日の日程の各議案の説明は先日の会議のうちに終つておりますので、本日はただちに質疑より行ないます。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第二、報告第二号を議題といたします。

報告第二号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて報告を終ります。

議案の上程

○ 議長（西村真次君） 日程第三、議案第三十九号を議題といたします。

議案第三十九号 千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部を改正する規約の制定について

○ 議長（西村真次君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長（西村真次君） おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長（西村真次君） 日程第四、議案第四十号を議題といたします。

議案第四十号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第五、議案第四十一号を議題といたします。

議案第四十一号 館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第六 議案第四十二号を議題といたします。

議案第四十二号 損害賠償の額を定めることについて

質疑応答

○ 一五番 (石井 正君) 一つお伺いいたします。過日消防長よりいろいろ細かくお話しただいたわけですが、私この話をはじめておととい聞いたわけですが、最初聞いたときははいわゆる火災の出動の際の交通事故というような解釈でお聞きをしておりましたところ、最終的にはそうではなかつたようでございました。いろいろ問題になると申しますか、やはり観点はこれが補償をするという、賠償するということはどういう観点に立つてこれを支払わなければならぬのかということが問題なわけです。そこでこの間の説明では納得がいかないんですが、これが公務という立場で賠償がなされているという点の意義づけの説明が不足ではないかというように考えますので、その点について

少しお伺いしたいわけです。

○ 消防長 (星野清之助君) お答えいたします。私どもがこれを一応公務と認めました理由でございますが、まず

一つは火災現場から引き上げて間もない直後のことであり解散しておらなかつた。しかも当時いろいろ調べましたところホースなどの洗いをしておつたということでございます。これが一つ、それから消防ポンプを運転した者が部長の指示によつて動いたということ。上司の指示で動いたということ。三つ目が事柄の内容になりますが、ホースそのものが消防に直接関係のあることであつて関連が非常に強いという点でございます。四つ目が現在のところ詰所に電話が引いてございません。各詰所とも引いてございませんが、そういつたことから電話を用いない何らかの他の方法で連絡しなければならぬという事情があつた。こういうことを総合的に一応考えまして公務とみなしたというわけでございます。以上でございます。

○ 一五番 (石井 正君) 一応お聞きしましたけれども、そういう際の方法もいろいろあつたかと思いますが、消防車でそれを聞きに行つたという点が問題だと思ふんですが、その点について今後こういうことで注意を与えてあるというお話があつたわけですが、実際考えて見ますとですね、公務という点の意義づけが非常に薄いと思ふんです。それに今電話がない。部長の命令だということですが、今後こういう問題が起こらないためにいろいろな訓戒あるいは方法を取つたということでございますが、これを一般に解釈した場合には公務という点が非常に薄いと思ふ。今後もうこういうことで賠償を出していくということになると私は問題を含んでいと思うので申し上げたわけですが、きのうのお話していわゆる方法がまずかつたのであつてほかの方法で連絡ができたと思ふわけです。問題が起きてから考へたというような結果になつておるので、今後ともこういうことのないよう十分きのうもお話がありましたが、再度検討して何らかの機会にこういう説明会なり指導機会を設けまして、十分注意をする必要があるのではないかと思ひ

ます。以上。

○ 二二番 (小沢恵太郎君) 今、一五番議員の質問、これに関連あるんですが、われわれが消防署並びに各分団の消防車が町を走つておるときは大体公務で動いているという見方をするのが正しいのか、それとも公務外にあの消防車が街頭を動くことが相当あるのか、その細かい見解をお聞きしておきたい。こう思うんです。

○ 消防長 (星野清之助君) お答えいたします。一般論としては平素お見かけするような場合それは火災出動または訓練出動という大体が限られた範囲のものであると御理解いただいて結構であると存じます。現にまたそのようになつております。いわゆる私で消防ポンプ自動車を運転するような場合は原則としてございません。

○ 二二番 (小沢恵太郎君) 火災のときはだれしもわかることであるが、警笛をならさないで走つておるのにしばしばあるんですが、あれは訓練とみなしてさしつかえないかどうか、それからさらにちよつとした故障がというために修理屋に持つて行く。これも公務という考えでわれわれは考えておつていいか、そういう点お伺いしたい。

○ 消防長 (星野清之助君) 私先ほど原則ということばを使いましたが、火災の場合でございますが、火災らしいというような場合に偵察出動と申しまして、サイレンを吹鳴しないで出る場合がとございます。そういう場合にサイレンを鳴らしてございせん。それから二番目の故障の修理の問題でございますが、これは私どもの方に修理工場がございまして、あそこで大体まかすつておりますけれども、部品、その他の関係からときに市内等の修理工場で消防自動車を修理するような場合もございす。従いましてそういう場合にはサイレンの吹鳴をいたしておりません。これも私どもは直接消防の出動ではございません。または訓練ではございませんが、そういう場合に備えての態勢の問題でございますので、一応公務ということで処理いたしております。

○ 二二番 (小沢恵太郎君) さらに一点、たとえば消防車を持つて行かなければ用が足らぬという場合と、ホース

一本とか部品の小さなもので自転車で行つても間に合う、ほかの車で行つても間に合うというときに消防車を持つて行くことがあるのか、ないのか、その点をお聞きしておきたいと思ひます。

○ 消防長 (星野清之助君) この間だまたまあいいことがございましたが、私どもの現在まで承知してある限りではそういうことはございません。この場合も先ほど申しましたように火災出動から帰つた直後のできごとというところでございまして、まだ勤務中ということから一応公務という見解を取つたわけでございます。

○ 二二番 (小沢恵太郎君) 本案について関連しますが、分団同志の間における連絡事項というものもあると思ひます。たしか消防分団ごとにあるいは人ごとに短波を持つておるといふことも聞いております。そういう連絡事項の爲に近いか、速いからいろいろあると思うが、いわゆる公器であるところの消防車をもつて連絡事項をせなければならぬ限界と、電話がないということなんだが隣の家から借りた電話なりあるいはその他の方法による連絡、これらのけじめがはっきりついておるかどうか、この点をお伺ひしておきたいと思ひます。

○ 消防長 (星野清之助君) お答えいたします。この間の件につきましては、私どもといたしましても他の車等を用いてもよかつたではないかという感じはいたしました。が、当時のいろいろ調べました結果によりますが、手近なところにあつたということで一応使つたというわけになつています。申しわけないことでございますが、今後はあのやりなことのないうに努め、いろいろ対策を講じましたよく団の幹部ともいろいろ話し合ひをいたしまして、御期待にそいうに努力いたしますので、どうぞこの件につきましては寛大によろしくお願い申し上げたく存じます。

○ 一四番 (遠山ヨネ子君) 私ちよつとお伺ひするものなんです、今のお話して事故が起こるということだと思ひ出したんですが、船形の分遣所もそうですし、それから館山の分遣所、富崎みんな道路にすぐ面して前に駐車する余裕がないので、知つてゐる車はとまると思ひんですが、この間バスに乗つておりましたら船形の分遣所で車が出てきて

バスが停車しました。運転がへたでしばらく出たり入ったりしておりましたが、結局バスの運転手二回待つていたが迂回して通り越した。これは市長さんにお考えをお伺いしたいんですが、消防はたいへんなお仕事で今のような事故は出先のことでたいへんだろうと思うんです。説明も聞かないで今だけで申しわけないんですが、分遣所をどうせ置くんでしたらもう少し前を余裕をもつて敷地そういうものを充実する方がいいのではないかと思います。技術的に消防長さんにお答えしていただきたいんですが、市長さんいかがですか、しろりと目に見てああいう事故が起らないと思う。いかがですか。

○ 市長（本間 譲君） 今どこの消防分団でもそういう情勢ですね。これは市街地の中へ作つてありますからちよつと広げるというわけにいかないし、やるなら場所を変更しなければならぬ。運転技術がいいということ、わるいという人で違ふと思うんです。あなたのおつしやることはいいことですけれども、やつぱり場所もいろいろの関係上早急には参りませんと思いますけれども、今後そういう考え方でいい場所があればそちに移つてあぶなくないように、機能が發揮できるようにやることは私はいいと思います。今ただちにどうこうということには参らないと思います。将来のこととしてよろしいことだと思います。

○ 一四番（遠山ヨネ子君） 二度出たり入つたりしております。市内のあれでしたら場所を知つておりますからとまりますけれども、船形なんかカーブを切つて走つてきますと危険です。私は本当はそういう費用は相当市で持つてもいいと思う。前の方に広いところに自動車がつつと出ないような施設を館山市はそれくらいしてもいいと思うんですが、ところが市長さんお金もかかり場所の問題だからということですが、そんなに大きいあれではない。技術的に困るでしょう。いくらうまい人でも危険が起る。この事故どうして起こつたかわからないけれども、私は市民としてよく経験することですので、分遣所が道に直面しておる。そういうところを聞くんですけれども、これは要望に

しておきます。どうぞ消防長さん、力を入れて市民の考え方でお願いいたします。

○ 一六番 (五十嵐 昇君) 十八日の御説明におきまして船員の方々に対する休業補償のお話があつたのでございますが、この休業補償は船員である場合には船員としての休業補償がなされるべきである。こういう話を聞いておるのでありますが、そうしますと市で補償する補償と船員としての休業補償を受ける権利の人とダブリはしないか、こう思うんですが、その点はいかがでしょうか。

○ 消防長 (星野清之助君) その点も私も示談を取りかわすにあたりましていろいろ研究したわけでございますが、あいつた際には一応補償がないということの見解で処置したわけでございます。

○ 一六番 (五十嵐 昇君) その点につきましては確実な面での話しを聞いておりませんので、一応調査いただきましてまた御返答をいただきたいと思ひます。

それから、いわゆる交通戦争といわれるぐらいに交通事故頻発、この件数が年々増加しておる状況でございますけれども、先ほど達山議員から消防署の設置場所の不適というお話しがございましたけれども、場所をかえるというようなことはなかなか困難でございますので、消防署の道路の前にここは消防署があるのだというような道路標識等をつけることができないかどうか、これをお伺いしたいと思います。大きく道路をまたがりまして消防署あるいは分遣所等の設置場所であるというような道路標識を大きく揭示できないかどうか。

○ 消防長 (星野清之助君) お答えいたします。道路標識の関係でございますがこれは一応道路の交通の安全ということとかかわり合いを持つ事項だと存じます。しかし消防署があるということをはつきりと表示することがいいことは申すまでもないと思いますが、その点いろいろ研究いたしまして、そういうことが可能であるとすればそのような措置をいたしたいと思ひます。

○ 一六番 (五十嵐 昇君) なおこのことに關係いたしまして、当館山市が交通安全宣言都市というふうなことでございますので、館山市におけるそういった事故等が非常に頻発してゐるのではなからうか。またそういう頻発場所等に道路標識、危険の場所であるとか、あるいは道しるべ的な道路標識とかこれをもつと多く設置していただいたら特に東京方面あるいはその他の地域から観光館山を訪れて参りますときに事故防止と合わせていろいろ名所、旧跡あるいはその他につきまして道しるべ的な道路標識によつて行動するということになつて、この事故の発生等の防止にも役立つのではなからうか、こう存じますので、その点もつけ加えましてお願いしたいと思ひます。

○ 二八番 (望月照正君) 一点お聞きしておきますが、三十八万の財源はどちらからお持ちですか、損害賠償額の財源はどこに求めてゐるか。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) 三名の直接身体に傷害を受けました医療費が...

○ 二八番 (望月照正君) ちよつと違ひますが、三十七万九千円の、この額の財源をどこから求めましたか。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) 約十八万は保険による給付がある見込みでございます。それから残額二十万圓は四十四年度の一般財源からいただいてやる予定でございます。

○ 二八番 (望月照正君) 十八万が保険給付からちようだいできるということなんですが、保険の額、任意保険の対象額、契約額これらをお知らせ願ひたいと思ひます。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) これは自賠法による保険でございます。任意保険ではございません。詳しく申し上げますと、医療費それから慰謝料、休業補償この三種類でございます。

○ 二八番 (望月照正君) そうしますと、あれですか、十八万が給付されるであろうという想定はどういうところから判定したんですか、理解に苦しみますが、正当なる理由があつた場合には自賠法としても三十八万はおりると

と思いますが、十八万で切つたというのはどういう根拠でやつたか、お聞かせ願いたい。それからもう一つは二、三年前からその都度お願いしてあるんですが、特に消防車の場合の任意保険は必ずかけるべきだと再三いつておりますが、この前の決算のときに任意保険に加入したのだということを聞いた記憶があるんですが、その点もう一べん確かめたいと思います。

○ 消防本部次長 (岩田 実君)

おつしやるとおり本年度から消防署の車両それから消防分団の車両任意の対人保険は五百万加入しております。それから自己車両を損壊したときの保険はその車の新旧によりまして三十万乃至百八十万の保険に任意で入っております。ただしこの場合はこの保険の対象となり得るものはけがをしました三名の医療費、休業補償それから慰謝料これだけでございますので、保険には確かに任意の対人保険五百万それから自己車両の損壊した場合の保険、これにおのおの入つておるわけでございますが、残念ながらこの場合には任意に入つた保険では対象にならないということです。

○ 二八番 (望月照正君) いわゆる三十八万かつたりち十八万円で打ち切つたということ、それをどこから持ってきたか。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) 自動車賠償責任保険法の定めるところによりましてこの事故の場合給付を受けられるものは慰謝料とそれから休業補償とそれから医療費この三つだけでございまして、これを算定いたしましたところ約十八万円ちよつとでございますので、若干低く見積りまして十八万といいたわけでございます。

○ 二八番 (望月照正君) 今のお話しはよくわかりますが、一般の場合には自賠法の場合にしても示談が成立して代金を払つたその時点で認定する。結論を出すと思うんです。三十八万現に支払い済みですか、それともこれから支払いますか、十八万という給付がどうもはつきりしないと思います、その点もう一回。

○ 消防本部次長（岩田 実君） お答えいたします。十八万円につきまして、医療費は一人について五十万以内でございすから、これはかかつただけくことは間違ひございません。それから問題は休養補償と慰謝料でございす。これにつきまして算定事務所がございましてそこに問い合わせました。大体漁船員でこういったものはどのくらい出るかというのを問い合わせて、この額を大体十八万ぐらゐは出るだろうというふうに考えました。それから金額につきましては、昨日消防長から御説明ありましたとおり一応若干のあれを被害者に払いまして、御審議いただきまして議決を経ましてから全額払う。こういうことになつております。

○ 二八番（望月照正君） よくわかりました。任意保険のことにつきましては、対人が全部入つておりますといひますが、対物ということもつきものでありますから、そういうものを考慮して対物も入つておくように、そうしますとこういふ問題も解決しますから、これを要望しまして終ります。

○ 議長（西村真次君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長（西村真次君） おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第七、議案第四十三号を議題といたします。

議案第四十三号 館山市酪農振興事業資金利子補給条例の制定について。

質 疑 応 答

○ 四番 (伊賀多朗君) 多頭化ということですが、十頭というようを話したたと思うんですが、その数のことをもう一回聞かしていただきたいと思います。それから金融機関のことです。これも説明があつたようですが、もう一度教えていただきたいと思います。それからそのときの利子がどのぐらいのものでございましょうか。その辺をお願いします。

○ 農産課長 (石井 謀君) 第一の質問でございますが、乳牛を多頭化するまた專業化する場合には十頭程度の牛がありませんと專業化はできないわけでございます。十頭以上を利子補給の対象にいたしたいと考えております。第二点の金融機関でございますが、館山市農協を考えております。

それから第三の利子でございますが、これは年五分以内を利子補給するわけでございますが、これは非公式でございますが、農協の理事者側と相談いたしまして、基本金利を八分という程度で話し合つてございます。これが制定された場合におきましては、基本金利を八分ということで考えております。

○ 四番 (伊賀多朗君) 實際に專業家ということになると十頭以上ということはいえると思いますが、實際に飼つておる人たちが十頭以下の人たちがけつこうあると思う。たとえば五頭、六頭あつて今後新しく飼つて十頭

以上になるといふ人も対象になるわけでございますね。実際十頭以上になれば専業家ですけれども、農業をやつておるといふ方もけつこう多いのではないかと思います。実際のパーセンテージとしてはどのぐらいの數か、十頭以下で兼業していくというケースが非常に多いのではないかとパーセンテージとしては、一方専業家というといくらでも多くなる。安房郡市酪農で盛んになつてゐると思ひますが、ある程度裕福な人であるといふふうに一応考えられるのではないか。十頭以上現に持つてゐるといふ人、それにプラスアルファしていくといふわけですとわりあい裕福な人である。困る人はむしろこれを借りたいといふ人は小さい人の方が、十頭以下の人が多いのではないかといふ話もございます。困る人はむしろ、その辺のことをもう一度聞かしていただきたいと思ひます。

それから基本金利といひますと、そちらの方詳しくございせんが、普通の金利と考へていいんでしようか、基本金利といふとほかにまだつく金利でございすか、わからないものですから教へてもらいたいと思ひます。

それから農業近代化資金はこの対象にならないわけでございすね。これはもうすでに皆さんがそれぞれ活用してゐるようです、農協に限らず市中銀行といひますか、市内にある銀行でもこの貸し付けといふのは行なつて搾乳機とか建物とかいふことで農業近代化といふことで貸し付けてあると思ひますが、その点のことをもう一回お聞かせ願ひます。

○ 農産課長 (石井 謀君) 乳牛の十頭以上といふことは、こゝういふ考へ方を持つております。十頭以上でなくても極端に申し上げますと五頭乳牛を現在飼育しておりますが、近き将来十頭以上にしようとする計画を有しかつ市長が認めた場合につきましては、利子補給事業の対象にいたしたいといふふうに考へております。

それから御参考に申し上げますと、現在の館山市の乳牛の飼育頭數が二千八百六十七頭ありますが、このうち五頭以上飼育してあります酪農家が二百二十五戸あるわけでございます。今回資金の考へ方としましては、大体七頭程度

の飼育者を対象として考えておりますが、これを考えますときに九十一戸と非常に少ないわけでございますが、先ほど申し上げましたようにあくまでも專業家を育成したいというような考え方でこういうふうな酪農家を対象として考えておるわけでございます。

なお、資金の關係でございしますが、これは館山市が特別に考えました利子補給制度でございまして、農業近代化資金あるいはまた農林金融公庫から借り受けております事業に対しては、除外さしていただきたい。こういうような考え方でございます。なおこの事業費のほかに現在館山市が、酪農者が融資しておりますものが農業近代化資金等を利用しておりますが、これは農業者と直接關係がございします農協を金融機関として借り受けしておる状況でございます。

○ 四番 (伊賀多朗君) 專業化を目的としておると思うと頭数のことは何もいえなくなる。現状としては五頭以上の人が二百五十五軒、七頭以上九十一軒ですか、二百五十五軒のうちに九十一軒含まれているかどうか、そうすると三分の二ぐらいは五頭前後の人が多い。一番乳牛をやっている人では苦しい。半分は農業をやっているというパーセンテージが多いのではないか。十頭以上のパーセント御説明がございしませんでしたけれども、だんだん多くなるほど專業化するでしょうけれども、実際のやつている戸数のことからいいますと、五、六頭ぐらいの人が非常に多いパーセンテージではないか。ただ数からいえばそういうことでございますので、このことはこのこととしておいても将来そういう人たちを対象にするとかそういうことを一つお考えいただきたいと思うんですが、それから金利のことでございますが、八分というところのうち五分だけ市が見る。残りは本人ですね。そういう解釈でよろしいかどうか。

○ 農産課長 (石井 謀君) お考えのとおりでございます。

○ 四番 (伊賀多朗君) 了解しました。

○ 八番 (黒川 正君) 酪農振興対策の一環としてまことにけつこうなことだと思うんですが、その中でただいまの課長の御説明で県とは別個にやるのだというようなお話であつたんですが、県は県でまた市に対して酪農振興対策で利子補給をするのだという別個の立場からまたくるのか、それと合流してやるのか、その点についてお伺いいたします。なおまた百五十万を限度として貸し付ける。これに市が利子補給をするのだということでございますが、百五十万円の限度額は必要経費の何%ぐらいまでやるのか、全額やるのか、なおまた乳牛の多頭化を奨励するために市が利子補給をするのは5%を限度としてやるんだということがうたつてあるようでございますが、これは事業別にこの補助率をかえてやるのか、たとえば乳牛導入の場合には何%やるんだ。それから畜舎改善には何%だという事業別に分けてパーセンテージをかえていくのか、一率に支給するのか、その目的別によつて支給率をかえていくのかどうかというところをお伺いしたいと思います。二点だけお伺いしたいと思います。以上です。

○ 農産課長 (石井 謀君) 現在県で酪農振興のために補助事業として取り扱っております関係は確かでございます。これは小規模草地改良事業とかあるいは酪農の集団的なことでその事業に対する補助とかがございます。ございますが、それはあくまでも補助金でございますして、この事業は市の単独でございますしてあくまでもその事業に対する事業費の利子を補給するのだということで県と別個のものでございます。

それから事業費の百五十万を限度とする。これは何%かということでございますが、あくまでもこれは申請に基づきまして金融機関とそれから借り受け者との契約のもとにそれがパーセントがきまるわけでございますが、そのきまつたものに対して市が五分の範囲内で利子を補給するというところでございます。それから三番目のいろいろ事業の内容によつて利子補給の率が異なるかどうかということでございますが、これは全部事業費に対する五分でございますので、全部同じでございます。以上でございます。

○ 二五番 (田村源治郎君)

第三条の資金の貸し付けですが、これは畜舎または土地を買つて酪農をやりたい。牛はあるけれども土地がない。狭過ぎる施設である。そういう場合の土地は貸し付けをするのかしないのか、それからもう一つは牛を買い入れて伝染病にあつて死亡した。五頭のうち三頭、金は借りた。その利子を補給するかどうか。三年を限度として年五分の範囲内、どういうわけで三年を限度にしたか、その理由を。

○ 農産課長 (石井 謀君)

お答え申し上げます。土地の取得の場合でございますが、これはこれと別に自作農維持特別資金の非常に低利な扱いがございますので、こちらの方で扱つた方がかえつていいんではないかと考えておりますが、なお土地の問題につきまして申請が出た場合には第五のその他特に市長が認めたものであるということで一応検討いたしましたと考えております。

それから三年を限度とするようなことを考えましたのは、条例の案を起案いたしますときに関係者の御意見を聞きまして、三年が適當ではないかということとまあ三年ときめたわけでございます。以上で別に根拠はございませんが、三年程度利子補給したならばあとは収益が上つてくるというふうな考え方で三年を限度といたしましたわけでございます。それから牛が事故死した場合にその事業に対して利子補給をするかどうかということでございますが、あくまでも三年を限度として利子補給をいたします。以上でございます。

○ 二五番 (田村源治郎君)

今の土地のあれですが、三頭いてもう二頭ふやします。土地が足りないのだということ、それはその他特に市長が認める資金の方にする。このその他市長が認める資金というのは何もかにも入るという見方であつて、当然三頭飼つていたものをもう二頭買いたい。土地がないということであるならば、それぐらいのこととは一々市長に聞かなくても当然事業をするというものはあてはめるべきもので、どういうわけで市長に聞くんだ。酪農の育成という趣旨に何らならないではないか、三年が適當といつても酪農をやつて三年ぐらいで果していろいろ

の施設、畜舎、その他の改善、酪農機械収益がその方に与られて収益が上るわけがない。三年ではとうていできない。三年を見込んだというのはどういうわけだ。だれとだれが検討したのか。必ず百五十万ぐらいのものでは少なくとも五年か十年見てやらなければならない。三年という酪農の振興は計算のものではないか。その他特に何でも市長に聞かなければならないということであるならば酪農の育成は發揮できない。市長がいないう場合にはこれは仕事ができない。一々市長が出てこなければならぬ。それらの確実なる酪農の育成について市長がいなくてもこれができるといふ資金の借り方の御答弁を願います。

○ 農産課長（石井 謀君） 貸し付けの種類でございますが、乳牛の購入資金、育成資金、畜舎等改善資金、酪農機械、器具の購入資金この四つが原則でございます。しかしこういうような酪農を振興させるためにこれ以外にどうしても必要な事項が生じた場合の特認事項をここでもつて市長が定める資金というふうに考えておるわけでございます。従いましてただいまの質問の土地の問題でございますが、そういうふうな振興をさせるためにどうしてもその土地がなければ専門化できないのだというような場合における特別な事項でございますので、そういうふうなことを申し上げたわけでございます。それから期間の問題でございますが、これは金融機関とそれから酪農者の借り受け者が、期限は契約するわけでございますが、その契約の中で市は三年間だけを利子補給の対象とするということで十年間金融機関と借り受け者が契約してもちつともさしつかえないわけでございますが、考え方といたしましては、指導的な立場で長々と借りておつてはなかなか酪農経営も困るということで大体乳牛の導入については五年程度が適當ではないかというように考えておりますが、あくまでも三年というのは利子を補給する期間でございます。先ほども申し上げましたとおり、この基本金利を八分程度で考えておりますので、三年間以後につきましては、この金利でもつて借り受け者がお返ししていくというふうな考え方でございます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 利子補給条例の基本的なものについては特に申し上げることはなく私も賛成でございます。

ただお聞きしておきたいのは房州といいますが、この地方は酪農の盛んな地方である。そういうふうにいわれてきておりますし、私どもも考えておつたんですが、ここでさらに酪農を振興させるというためにこういう条例を作るんだということですが、こういう条例を作らなければならない酪農事業の背景といいますが、こういう点がもう少し説明を聞きたい。条例を制定しなければならない背景は何かということです。それと酪農ばかりではなしにその他の事業でも、家畜の中でも振興しなければならぬものもあるのではないか。しかもそういうものに対しても市では考えなければならぬではないか、こういうことも考えられるんですが、そういうものに対してのお考えはどうか。この二つについてお伺いしておきたいと思います。

○ 市長 (本間 譲君) この問題を決定しようとしたもとは米作転換というよりなことがもつてこれを始めたわけですよ。ですから頭数が少ないとやはり企業としてうまくないらしいんですが、どうしても十頭以上ぐらいにならないといろいろ機械やなんかそろばんに合わない。ですから大体十頭以上ということで米作転換のことがもつてなつて市がこれを打ち出している。こういうことでございます。

それから今お尋ねのことはおそらく養豚の問題ではないかと思いますが、養豚については非常に肉が不足しているそうです。ですからこの問題は研究ができておりませんから、養豚家の方からいろいろお話しもございいますから養豚についてもこれは別個に考えて何らかの方法を考えていきたい。たとえば養豚をやると近所迷惑とかいろいろなことがあります、そういうことを考慮してこれは研究して別に方法を考えていきたい。酪農の奨励はもと米作転換と、いうことで市が打ち出しておるわけです。頭数が十頭以上ないと採算的にも企業的にもうまくいかない。こういう御意見をもとにして始めたわけでございます。そんなわけでございます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) わかりました。養豚あるいは養鶏というようなことも館山市では相当の規模の人もお

るわけで、それから肉鳥なり卵こういうことも食生活の改善ということにつながりまして、相当の消費量というものがだんだんふえてきております。従つてその生産も当然考えていかなければならないか、そういう意味で別の機会に考えるつもりだ。こういう御返答でございますので、なるべく早い機会にそういう施策が実現されるということをお期待をいたしまして質問を終わりたいと思います。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑ございませんか。 御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。
午前の会談はこれにて休憩いたします。午後は一時会議を開きます。

午前十一時二十九分 休 憩

午後 一時 二分 再 開

○ 議長 (西村真次君) 午後の出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

- 議長 (西村真次君) 日程第八、議案第四十五号を議題といたします。

議案四十五号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

- 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

- 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。
〔異議なし〕と呼ぶ者あり

- 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

- 議長 (西村真次君) 日程第九、議案第四十六号を議題といたします。

議案第四十六号 館山市養老年金条例の一部を改正する条例の制定について

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

○ 議長 (西村真次君) 「異議なし」と呼ぶ者あり)
御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第十、議案第四十七号を議題といたします。

議案第四十七号 昭和四十四年度館山市一般会計補正予算(第二号)

質疑応答

○ 一五番 (石井 正君) 二中の武道館の建設について所管の委員会の責任者並びに助役さんにちよつと基本的な

ことをお伺いしたいわけですが、入札につきまして今まではこういうことはなかつたではないかと思いますが、武道館についてはある材料が市の方で買つてあつてそうして入札した際にそれを使用させるという方法をとつてゐるのだそうですが、四十四年度からそういうことになつたのかどうかについてお伺いしたい。

○ 建築課長 (池田春雄君) 今教育委員会と助役さんの話してお願ひしますということですが、工事のことについて私の方から申し上げます。

二中の武道館のことにつきましては、材料を確かにあるものを指定しました。ということは普通の場合はありません。特にこれは工事を急ぐ關係上その品物を前もつて予定しておいた。それを使うということは入札が決定してから注文をし、取り寄せるというよりも早くできることになりますので、しかも材料が長い長尺ものの場合、一応御指摘のものは長尺ものでありますからそれをやりましたのと厚さの問題が武道館についてはありますものですから、普通の一般にやられているのは床板が六分なんです、その材料を一般に六分と称しているものが五分五、六の厚さになります。それを防ぐために六分のを注文したというように二つの理由からそれを指定しておきました。以上です。

○ 一五番 (石井 正君) ただいま指定をしたということですが、材料の指定ということは今回ばかりでなくいろいろあると思うんです。しかし指定をしてもその材料が館山市で買つておるといふことは認めたくわけですが、問題はそれがために入札がうまくいかぬというようなことも事実聞いておるわけです。それがために業者が逃げておるといふ点もあるようですし、いろいろ問題があるようです。指定したということとはわかりますが、それが館山市においてたとえばある業者だけが特殊な材料を持つておるといふことならばそれは問題はないと思うわけなんです、各業者が全部一二メートルの柱にしてもあるいはヒノキのフローリングにしても持つておる。それがある特定の業者から買

つておいて入札の場合落ちたらこれを使えというより、方向でいく考え方が私はどうかと思うんですが、その点。

○ 建築課長 (池田春雄君)

ごもつともなお話ですが、このことについては材木屋さんにあつちこつち二、三カ所聞きました。長さの問題で難点がある。断られたという、あとから聞いたところではこういうような話しと、長尺のもので、特定のあれですから料金、値段の問題なんかも問い合わせて見ました。それと先ほど申し上げました期間的の短縮をはかるためにそういうふうにやつたわけでございます。

○ 一五番 (石井 正君)

まだちよつと納得がいかないんですが、どこの業者に聞かれたかわかりませんが、大部分の大きな市内の業者はこれだけの材料はただちに集めるということも私の方は調べておるわけですが、もう一つは課長が知らない間にこれが購入されているということが事実かどうか、この点をお伺いしたい。それから期日の問題ですが、大体入札が終つてたとえば床フローリングを使うというのは少なくとも二月、三月かかる。すぐできるものではない。入札が済んでから業者が適当な材料を見つけるということも可能なわけですが、それから価格の点ですが、事実今まで見積つた業者の方が安くて、今指定されて求めてあるものの方が一本について幾ら高いということまでわかつておるんですが、そういう点今の課長の答弁ではちよつと逃げ口上に聞こえますが、事実これを買う際に課長がそれを知らなかつたというのは問題があると思う。私はそういう一つのをなるべく安くそうして市内の業者から至当な価格で入れるということがたてまえだと思つてます。細かいことはどうこう言いませんが、そういう点で今度の扱いについては問題があるというふうに考えるわけです。この点どう課長はお考えになりますか、とにかく課長がそれを知つておるかどうかということを一つ合わせてお伺いしたいわけです。

○ 建築課長 (池田春雄君)

この問題は私知っております。知つています。それから今の問題で高い、安いの問題もありますけれども、これは私の方で発注した、頼んだということを指摘されるでしうけれども、それを無為にや

めてしまうということはその人に迷惑がかかります。やつたことはやりましたけれども、何というんですか、一般常識からはずれているということはありますから、これからはそういうことは工事の短縮とかそういうことは抜きにしまして、普通にやつておこうと思います。それから今の難問題に落札しないという問題は昨日解決しました。以上です。

○ 一五番 (石井 正君) 一応今後そういうことはということばがございましたが、これはだれに聞かしても問題があると思うわけです。先ほどから聞いておりますと、特殊な材料とか早く注文しなければならぬということば、この場合は問題でないわけです。私は細かい問題はさておきまして実際これが安くしかもない材料ではかの業者にもないということになればこれは認められると思うわけなんです。しかし今回行なつたような考え方に大きな問題が私はあると思う。課長が知つてゐるということでしたが、あとで知つたんだと思うわけなんです。そういう一職員が簡単に考へてある業者と契約をしてそうして入札してしまつてからここに買つてあるからこの材料を使えといううな方向へ持つていくところに問題がある。一つ一つの長さだとか材料がどうかという問題は二の次にしてそういう考へ方で工事の請負を持つていくのでは少々問題がある。この点課長がはつきり今後そういうことのないように確約してもらいたいと思うわけなんです。どうです。

○ 建築課長 (池田春雄君) 確約の問題は了承します。ここに無理があるのは単価の問題と期限の問題それをこれから私の方に許してもらいたいということをお願いします。

○ 一五番 (石井 正君) どういうことですか、単価の問題をまけさせるということですか。

○ 建築課長 (池田春雄君) というのは予算的問題それから期限の問題これがわれわれにしては一番むずかしい問題なんです。というのは余談になりますが、この間も四つの入札をかけて三つ不調に終つておるような、それを何

とかをなしていくのがわれわれの仕事ですからできるだけ要望にこたえてやつていこうとしてやつたわけです。悪意があつてやつたわけではありません。以後は以上のような観点からそういう特に指定するということはまた同等品というふうに見ますから御了承願います。

○ 一五番 (石井 正君) 一応了承しますが、今後そういうことのないうに十分気をつけて、これはだれに聞かしてもその中に何か暗いものがあるんではないかというように見方をされがちだと思ふんです。一部そういう声を私も聞いて調べたところがあるほどそうであつたので、これではまずいということで、それが事実かどうかお聞きしたわけですが、今後とも十分そういう点で御留意願いたいと思います。

○ 建築課長 (池田春雄君) ちよつと今お話しの暗い点があるかどうかというように話しが出ましたが、そういうことは絶対にありません。

○ 二〇番 (中村省吾君) 今のことに関連すると思ふんですけれども、一五番議員の方からいろいろ質問があつたわけなんですけれども、その中で本来が開発公社が請負されておる仕事だと思ふのです。従つてこの武道館が完成して市に引き渡されるまでは開発公社の責任にある。そこで今の発言の中にも暗い面がある云々ということを本会議でいわれるのは開発公社として責任ある問題である。この点議長さん取りはからつていただきたい。

○ 議長 (西村真次君) 一五番議員、あなたの発言に関連するわけです。「暗い面がある」ということが懸念を欠くと思ふわけですが。

○ 一五番 (石井 正君) 「暗い面がある」というふうに私は申しません。と思われても、こういうような態度でいつたならば思われてもいけないではないか。そういうふしがあると外から聞かされることは慎んでもらいたう。こういう意味です。

○ 議長 (西村真次君) 二〇番議員いかがでしょうか、ただいまの釈明で。

○ 二〇番 (中村省吾君) 別にことばじりでどうこうという問題ではないんですが、だが市の一般会計の中から事業をするということではなくして、開発公社に一切を請け負わしてでき上つたものを市に移管するたてまえのものです。従つてこれが出来るまではすべて開発公社に責任があるわけでして、ただいま答弁のやりとり建設課長と直接やつておりますけれども、それ自体私はどうもあまり好ましい姿ではないと思う。その中で、その過程の中でこの問題が暗い面が思われてもということはあくまでも私ども開発公社としてはやはり考えざるを得ないことばだろうと思う。もう少しあるのならあると指摘して、できるものなら指摘してほしいと思うわけです。

○ 議長 (西村真次君) 開発公社の関係で御答弁願います。

○ 市長 (本間 譲君) 開発公社は法人格が違いますけれども、やはり市で管理している。こういうこともいい得るわけですが、私は入札等については厳重な態度でのぞんでおるわけでございますが、今年の四月から仕事を請け負つた方々にもつまり直営でやるのを原則として、やらない場合には主管課長の了承を得てからやつてもらいたいというようなことでちよつと請負業者者に対してはいき過ぎのところもあるかもしれないませんが、私も私の責任ある立場においてとにかく落札した人がほかの人の代理でやれることは通常やれる。しかし私としてはどうもおもしろくないというところで落札した人がそれを直営でやることをたてまえでいつも入札前にお願ひして、その中でもやはりほかの人にやつてもらわなければならないものもあるから、それはそのとき事前に了承を受けてやつてもらいたい。そういうふうにいるいろいろやつておりますが、ただいまの件につきましては、私としては絶対に暗いことではないことを確信しております。しかしいろいろ疑惑の目を持たれたということは、その品物を特別のものを注文しておいたんです。それでなければ早く工事ができないということで、私の聞いた範囲では、入札してから聞いたんですが、値段

の方はあんたの方で折衝しなさいよ。品物はこういうふうに頼んであるから、値段のことには触れてないわけですよ。公社が買ったわけでもないはずですよ。公社も前に買うわけにいきませんから、ただ工事をいくら早めるからといって開発公社の金を自由にはできないわけでして、それこそ自分だけの行為、公社として認めた行為ではないわけです。そういうことがいろいろ指摘されるようなことにもなりますけれども、もう一つ考えますと、やはり業者指名についても請け負った人はいいけれども、請け負わない人がいろんなことを言いたがりますから言ったことが正しいと受け取る面もあるでしょうけれども、かけひき上という場合もあります。あれはおかしいではないか、自分らがやらなものですからそれをとらえていうことも考えられないかと思いますが、そういう場合もごさいます。私としては開発公社では断じてそういうことはないということは申し上げていい次第でございます。

○ 議長 (西村真次君) 二〇番いかがですか、他に御質疑ございせんか。

○ 九番 (三幣 勇君) ハページの歳入の十五款の諸収入一節雑入十八万の自動車車両共済、先ほど四十二号議案でもそういった同じようなことが出たわけですが、多少重複すると思えますけれども、もう一ぺんお答え願いたいと思います、十八万の内訳が四十二号議案のどの部分に該当するかということです。慰謝料、休業補償、医療費それで十八万出たという御答弁があつたわけですが、どの部分に該当するか。それからもう一点現在加入している任意保険の種類についてお伺いしたい。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) お答えいたします。議案第四十二号の損害賠償額金三十七万九千八百二十円の内訳としてございますが、このうち中央交通株式会社分の物品補償、休業補償は十八万の中に含まれておりません。銚子の波戸利男分同じく中村滝蔵分、加瀬定二分この三名の医療、休業、見舞金の総計でございまして、銚子市の土手商店第一伊勢丸乗り組み員分の七万円これも十八万円には含まれておりません。けがをいたしました三名分の医療、

休業、見舞金この総額が十八万四千三百七十円になりますが、一応十八万円見込んだわけでございます。

なお、保険につきましては、自動車の責任保険自賠によるものは全部入っております。それから任意保険は対人が各車両とも全部五百万ずつ入っております。ですからこれは相手が死亡したりあるいは五十万以上の医療費のかかるような大けがをした場合には当然五百万円の対人の任意保険の対象になるわけでございますが、一人一人の額は五十万以下でございますので、これは自賠法による責任の範囲内でございます。それから車体の方の保険でございますが、衝突いたしましたして相手の車をこわしたという場合にそのこわした相手の車を修理するには対物の保険に入つていなければならないわけでございますが、これは現在入っております。衝突いたしましたして自分の車をこわした場合にはその修理をする保険に任意に加入しております、その保険はその車、車の耐用年数に応じまして、新しく買ったものですと最高百五十万ぐらい入っておりますし、また古い車は二十万ぐらいの低いものもございます。以上です。

○ 九番 (三幣 勇君) わかりました。ただ私がわからない点はこの任意保険の加入について先般六軒町の本通りで消防車が突込んで家をこわした。こういう事故があつたので、任意保険は入るべきではないかということを再三本議会でもあるいは予算審査委員会でも要望した結果、入つたんだらうと思つたんですが、対人だけしか入つていないということですね。そういう事故があつてなぜほかの保険に入つてなかつたか、対人だけ入つていたという解釈がわからないんですが、この一点だけ説明してください。

○ 消防本部次長 (岩田 実君) これはお説ごもつとでございますが、この件につきましては、財政当局とも相談いたしましたわけでございますが、一昨年のあいつたようなたいへん御迷惑をおかけしたわけでございますが、あいつたような事故はごくまれでございますして、今までほかの交通事故関係、消防関係の過去の事故を調べましてもああいふことは希有なことでございますして、ほとんど相手の人を殺してしまつたり、大けがをさしたりということとそ

れから石垣とかがんじょうなものにぶつかつて自分の車を大破したという例が多いわけでございまして、お説のとおりこわした相手の車の修理費を保険に入つておくことも確かにそのとおりでございますが、今後財政当局と検討いたしまして、御趣旨にそうようにしたい。こういうふうに考えております。

○ 九番 (三幣 勇君) よくわかりました。ただ消火出動の際はよけい混雑とかそういうものが普通の場合よりあるわけですから特にこの任意保険に入つたらいではないかという御意見があつたわけですが、そういう場合にもつと十分検討して過去の事例だけに頼らずに現在の道路状況、交通事情等を考えてやはりこういうものを検討して加入していくべきだと思います。これは要望だけで終ります。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 審議途中でたいへん御迷惑と存じますが、ただいま上程されました議案に一つ誤字がございますので、御訂正を許可されるようお願い申し上げます。七ページの最初でございしますが、木引きの節の金額が六万一千円ということになつております。六万九千円の誤まりでございしますので、たいへん御迷惑と存じますが、御訂正方をお願い申し上げます。

○ 議長 (西村真次君) ただいまのとおり御訂正願います。他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論省略、採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

日 程 の 追 加

○ 議長 (西村真次君) この際おはかりいたします。本議会の申し合わせ協定に従い常任委員会の委員の改選を行ないたいと思いますが、これを本日の日程に追加し、ただちに議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

おはかりいたします。常任委員会委員の改選を行ないますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて決しました。

重ねておはかりいたします。ただいまの改選決定により現在の各常任委員会の委員は全員それぞれ辞職し、全委員会ともに欠員となつたことといたしますに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

なおおはかりいたします。ただいま決しましたとおり各常任委員会とも委員が欠員となりましたので、ただちにこれが選任を行ないたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○ 議長 （西村真次君） 御異議なしと認めます。よつてただちに選任することに決しました。暫時休憩いたします。

午後一時三十三分 休 憩

午後二時四十二分 再 開

○ 議長 （西村真次君） 休憩前に引続き会議を開きます。

常任委員会委員の選任

○ 議長 （西村真次君） これより常任委員会委員を本市委員会条例第四条の規定により選任いたします。局長をして報告いたさせます。

○ 事務局長 （高梨清一君） 報告いたします。

総務常任委員会委員 吉田勇治郎さん、黒川 正さん、西村真次さん、菊井敏博さん、石井輝久さん、安沢徳順さん、田中祿郎さん、

経済常任委員会委員 藤田益治さん、三幣 勇さん、小柴 孝さん、江田徳太郎さん、中村省吾さん、小沢恵太郎さん、山口 康さん。

文教民生常任委員会委員 嶋田石蔵さん、磯辺 博さん、山田教字さん、遠山ヨネ子さん、五十嵐 昇さん、島野

茂樹郎さん、秋山六三郎さん、一名欠であります。

建設常任委員会委員 伊賀多朗さん、白熊盛太郎さん、石井 正さん、安西益男さん、飯田義男さん、望月照正さん、鈴木市蔵さん、田村源治郎さん。

参考に議会運営協議会でございます。嶋田石蔵さん、藤田益治さん、磯辺博さん、石井 正さん、田村源治郎さん、島野茂樹郎さん、安沢徳順さん、以上でございます。

○議長 (西村真次君) 以上のとおり各常任委員会委員に選任いたします。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて決しました。

この際同条例第五条の規定による各委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。

総務常任委員会委員長 石井輝久君 同副委員長 黒川 正君

経済常任委員会委員長 三幣 勇君 同副委員長 藤田益治君

文教民生常任委員会委員長 嶋田石蔵君 同副委員長 五十嵐 昇君

建設常任委員会委員長 白熊盛太郎君 同副委員長 伊賀多朗君

議会運営協議会委員長 田村源治郎君 同副委員長 石井 正君、以上のとおりであります。

日程の追加

○議長 (西村真次君) おはかりいたします。本日の会議に議案第四十八号館山市監査委員の選任についてが提出

されました。これを本日の日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の配付

○議長 (西村真次君) 議案を配付いたします。

(議案配付)

○議長 (西村真次君) 議案の配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の上程

○議長 (西村真次君) 議案第四十八号を上程いたします。

(二八番議員望月照正君退場)

(書記明読)

議案第四十八号 館山市監査委員の選任について

議案の内容説明

○ 議長 (西村真次君) 説明を願います。

(市長本間 譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 山田教字監査委員が辞任されましたので、その後任としまして望月照正君をお願いいたしますが、非常監査委員として立派な方で適任と思われましますのでよろしく願ひいたします。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案に同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は同意することに決しました。

(二八番議員望月照正君入場)

日 程 の 追 加

○ 議長 (西村真次君) 千葉県競輪組合議会議員山口康君には本日づけをもつて都合によりその職を辞任されました。よつて本市より選出の組合議会の議員が一名欠員となりました従ひまして組合規約第六条第三項の規定によりこれが補欠選挙を行なうこととなります。

おはかりいたします。本補欠選挙を本日の日程に追加し、ただちに選挙を行いますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつてこれより選挙を行ないます。

千葉県競輪組合議会議員選挙

○議長（西村真次君） おはかりいたします。選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定による指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて選挙の方法は指名推選によることに決定いたしました。おはかりいたします。指名の方法につきましては、議長において指名することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて議長において指名することに決定いたしました。これより指名いたします。千葉県競輪組合議会の議員に小柴孝君を指名いたします。

おはかりいたします。ただいま議長において指名いたしました小柴孝君を競輪組合議会の議員の当選人と定めまことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつてただいま指名されました小柴孝君が当選されました。

ただいま千葉県競輪組合議会の議員に当選されました小柴孝君が議場におられますので、本席より会議規則第三十条第二項の規定による告知をいたします。

この際小柴孝君を紹介いたします。

(一二番議員小柴孝君登壇) (拍手)

○ 一二番 (小柴孝君) 小柴でございます。皆さま方の本当の心からあたたかい御同情によりましてただいま議長から指名されて、このたび不肖私その任にはないと思ひますけれども、喜んで競輪議員の職につかしていただきます。もとより私はそういう方面の仕事はあまり向かないと思ひますけれども、せつかくの皆さま方の御推薦でございますので、いろいろ勉強し、先輩諸氏から教をいただきまして、つつがなくその職責を遂行することをただいま心の中深く考えておるわけでございます。どうぞ、今後いろいろの面におきまして満場の皆さま方の絶大なる御支援をいただきまして、任到来まで御支援いただけるようにお願いいたします。簡単でございますが、就任のごあいさつにかえる次第でございます。よろしくお願いいたします。(拍手)

閉 会

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よつて会議規則第七条の規定により本日をもつて第二回市議定会定例会を閉会いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。

長時間ごくりうさまをございました。

午後二時五十三分 閉 会

○本日の会議に付した事件

一、行政一般質問

一、報告第二号

一、議案第三十九号乃至議案第四十三号及び議案第四十五号乃至議案第四十七号

一、日程追加 常任委員会委員の選任

一、日程追加 議案第四十八号

一、日程追加 千葉県競輪組合議会議員選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

議員

議員

西村 喜久
鈴木 節子
石井 邦子
(五三)

